

介護あんしん 相談員だより

第21号 平成28年3月発行
発行：鳥栖地区広域市町村圏組合
(介護保険課 地域支援係)
連絡先：0942-81-3111

介護あんしん相談員は橋渡しをします！

施設に入居していると、ちょっとした不満や不安があっても、直接スタッフに言うことを遠慮してしまうことがあります。介護あんしん相談員はご本人やそのご家族が施設職員に直接は言いにくいことをお聞きしたり、客観的な目で見えて気づいたりした点を施設側に伝えて問題の解決をはかります。



利用者さんや介護あんしん相談員の声からいくつかご紹介します
(平成27年12月・平成28年1月)



～介護あんしん相談員の声より～

相談員：月間スケジュール(白板)に音楽療法が予定されていましたが、具体的にはどのような事をされているのですか？

施設：主に介護度の高い寝たきりのご利用者の方に対し、昔好きだった曲や歌を流したい歌ったりすることで、回想していただく事が目的です。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



こちらの施設では、病状(胃ろう)などにより、普段居室から出る機会が少ない方や、主にベッド上で過ごされている介護度が重度の高齢者の方には、普段施設で行われているレクリエーションへの参加が難しいことがあるそうです。

そこで、レクリエーションの一つとして、音楽療法を実施されているそうです。

利用者さまになじみのある懐かしい曲を流しながら、手足の拘縮予防の運動を実施されているとのことです。

ベッドや個室から見える世界には限りがあり、刺激も少なくなります。

音楽で耳からの刺激や手足の拘縮予防の運動・マッサージで皮膚からの刺激、アロマなどで鼻からの刺激など、適度な刺激は利用者さまの楽しみにもつながると思います。

主にベッド上で過ごされている方に対しても、ちょっとした工夫やアイディアで楽しませる方法はあることを再度認識させて頂きました。

相談員：ナースコールがありませんが・・・。

施設：ナースコールを押せる人、押せない人がいて、こちらの利用者さんは押せないで設置していません。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



ナースコールを押せない人には、身体的な理由・認知症などによるものなど、様々な原因があると思いますが、押せない理由だけで無くしてしまうと、困った時に伝える手段がなく、ご本人はとても不安になると思います。

押せないとしても“置いてある”ことで安心される場合もあるのではないのでしょうか。

ある施設では、リウマチの方がナースコールを力をかけずに押せるよう施設の職員が改良していたそうです。

その利用者さまが、入院中に病院で使用されていた物を参考にし、本人の指の力に合わせ作られたそうです。

また、その施設では、ひざ掛けは車イス自走時にずり落ちていくのを見て、スタッフが車イスにひもをつけ、洗濯バサミで止めるなどの細かい工夫を考えられたそうです。

“押せない”ことに対して、何か工夫できる事はないか日々観察し、考えることも必要ではないのでしょうか。又、当然あるべき物が無い時の心情についても同様をお願いいたします。



～利用者さんの声より～

利用者：調理を担当する方が、献立や作り方を聞いてくれることがあるので、教えてるのよ。

施設：献立などは嬉しそうに教えてくださいます。

【鳥栖地区広域市町村圏組合より】



利用者さまには、お一人お一人に、我が家の家庭料理や昔からの得意料理などがあるのではないのでしょうか。

これまで何十年と料理を作ってきたベテランですので、自分なりに頑張ってきたという思いはみなさんお持ちのことだと思います。

こちらの利用者さまにとっては、スタッフの方から献立や作り方を相談されることで、頼られている・役に立っているという喜びにつながっていると思います。

また、献立を考えることは、脳の活性化や施設での利用者さまの今後の生活にも大きな効果があるのではないのでしょうか。



わたしたち、介護あんしん相談員は一人一人の小さな思いを、お伝えします。